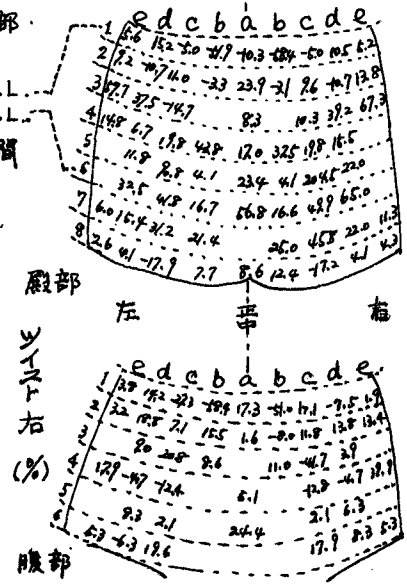
B 22　動作時における身体及びガードルの歪みについて

東北女大家政　○奥野右子　弘前大農　福地　博　大阪市大　田中道一

目的　ガードルを着用して動作を行った時，腹部・殿部・側腹部に生じる歪みを比較検討し身体との関係を調べ，ガードルのフィット性を追求する。

方法　ガードルにwaist lineおよび正中に平行に3cm間隔でマス目を引き，Ωゲージにより歪みを測定する。動作は，ツィスト，屈身，前屈，後屈，側倒等について，標準体型の被験者，21才の女子一名について行う。

結果　殿部では，ツィストを行うことにより，W.L.において負の歪みとなっているが身体下部になるに従って伸長され特に，H.L.付近では最大に達するが，ガードルの最下端では減少する。
これは，ガードル着用によってはみ出したwaist部，thigh部の脂肪が動作をすることにより圧迫してくるためと考えられる。

被験者体型内訳

身長(cm)	154
体重(kg)	55
Waist(cm)	67
Hip (cm)	93
H.Hip (cm)	84